

防衛大学校女子学生の存在感

11月16・17日、防衛大学校で、第67回開校記念祭が行われた。16日は校内の記念講堂での演奏会、演劇上演がある、演劇は女子学生が加われば表現の幅が広がるだろう。第4大隊前の特設ステージでは、女子学生3人のトークショーがあり、おしゃべりだけで時間をつないでいくが大したものだ。

防大には東南アジア、モンゴル、韓国などの留学生が約120名いて、女子留学生も数名いる。米国、オーストラリアなどからは短期の留学生もいて、防大儀仗隊のドリルには米海軍兵学校の女子留学生がドラムチームの一員として参加していた。

17日は防大開校祭でしか見られない観閲行進や棒倒しが行われる。観客は若い女性の二人連れなども多く、学生舎内の飾りつけも多彩で、昔に比べると何となく華やいだ雰囲気で、一般大の学園祭に近いように思える。

10時30分、吹奏楽部で編成する音楽隊を先頭に、観閲部隊が入場、整列した。次いで学生隊学生長が観閲部隊指揮官として幕僚・校旗を従えて入場してきた。学生隊学生長は女子学生である。背も高くなかなか凛々しい。学生隊幕僚4人のうち2人も女子学生である。女子の中隊長学生長も一人いたし、最初に入場してき

た音楽隊の先頭の指揮者も女子学生だった。儀仗隊にも女子学生が入っており、4・3kgのM1ライフルを自在に操っている。

1992年第40期生から女子学生が入ってくるようになり、もう30年近く経つ。自衛隊における女性の配置制限も実質上全廃され、あらゆる職務で女性自衛官が活躍する時代になった。

観閲式後に行われた大隊対抗の棒倒しは、さすがに男子学生だけで行われたが、自衛隊そのものが男だけの組織ではなくなっている。防大もまた男だけの社会ではない。開校祭の雰囲気も昔と違うのも当然なのだろう。

